

別紙様式 2

ブロック名 北海道・東北

第 1 2 回 献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

1. 22年度献血推進計画に盛り込まれた事業の取組予定

①平成23年4月1日施行予定の採血基準改正についての広報

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うにあたっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を 得るための方法等)
青森県	<各種メディアを利用した啓発活動> ・ 地元ラジオ放送 (血液センター) ・ 県の広報番組での周知	
岩手県	・ テレビ CM の作成	
岩手県	<その他の取組> ・ 高等学校を訪問し周知を図る	・ 献血推進協議会・報道機関・市町村・教育委員会 (校長会議での協力依頼等)
各道県	・ 広報媒体を利用した啓発 ポスター、パンフレットを用いた啓発 県のホームページへの掲載 献血場所での PR ・ 関係機関に対する文書通知	・ 各高等学校・保健所・血液センター ・ 市町村・報道機関・協力団体等 ・ 関係機関(医師会、病院協会、薬剤師会等)に通知 し、各会員に対する周知を依頼する。

②地域の特性に応じ、キッズスペースを確保する等の親子が献血にふれあう機会を設けるための取組

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての規制や連携・協力先 (都道府県における規制について記載願います。また、 連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を 得るための方法等)
各道県	<p><キッズスペースの設置状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7道県中4道県がキッズルームを設置しており、保母の資格を持った者をスタッフとして配置している県もある。 	
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスペースの設置についてホームページのほかタウン情報誌に掲載し広報している。 	
北海道	<p><キャンペーン等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンデーテリング※で小学生の親子を対象に献血の意義を啓発 	<p>※札幌市交通局が実施しているスタンプラリー方式の事業。血液センターが参加している。</p>
秋田県	<ul style="list-style-type: none"> ・「親子ふれあい献血」キャンペーンを実施し、親が献血している姿を子供に見学させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採血室で走り回ったり、騒いだりしないよう職員が付き添って見学させる事が必要。キッズコーナーでは複数の子供が集まるとケンカ等で騒ぎ出す事もあるため、管理する職員の配置が必要
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭献血では、子供も献血バスの中に入って親の献血を見学 	
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・「けんけつKID'Sサマースクール」 対象：小学4～6年生及びその保護者 	
福島県	<ul style="list-style-type: none"> ・血液センター見学会（夏休み） ・献血感謝デー（2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・報道機関に広報依頼

③「献血出前講座」や血液センター等での体験学習への取組

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ＜献血出前講座等＞ ・ライオンズクラブ、看護学校等で講座の実施。小中学校への講座実施を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日赤、教育委員会、札幌市
青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一環として献血講座を実施（血液センターから学校を訪問） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会、各小・中・高等学校長
岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校を訪問しての講話及びビデオ上映等による普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校を訪問し、献血協力依頼時にあわせて講話開催を依頼する。 ・JRC 活動の生徒を対象に実施（高等学校）
秋田県	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生や中学生を対象とした献血講話の実施（会場血液センター、7月実施） ・「献血ごっこ（仮称）」の実施（血液センター） ・保健所職員による出前講座（県） 	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会、各高校
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校に出前講座を実施（血液センター） 	
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・「けんけつ KID' S サマースクール」 対象：小学4～6年生及びその保護者 	
福島県	<ul style="list-style-type: none"> ・各高校へ出前講座の周知 	教育委員会
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ＜施設見学＞ ・サンデーテーリングで血液センターに施設見学に訪れる。学生ボランティアが小学生親子に対応。 	

青森県	・親子献血セミナーを開催（夏休み、小学生・親子対象とし、血液センターを見学できる。）	青森市教育委員会
岩手県	・「親と子の血液センター見学会」を開催	
秋田県	・「献血ごっこ（仮称）」の実施（小学生の親子を対象）	
山形県	・高校生を対象にバスで宮城県にある基幹センター等の施設見学を実施	
宮城県	・高校生を対象とした血液センターの検査・製造部門の見学を実施（宮城県）	

④大学等における献血の推進及び将来の医療従事者をめざす者に対する普及啓発の取組

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学、専門学校、サークル、学生寮での勉強会の実施 ・「一緒に（グループ）献血」の実施（5人1組で献血、処遇品の増量） ・学生献血推進協議会に看護学生が入り、献血の推進や勉強会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・血液センター、市町村
青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県学生献血推進連絡会の活性化 ・医学生を対象とした献血ルームの見学及び実習の実施 ・県主催の輸血療法安全対策講演会への医学生の出席を呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、大学医学部付属病院
岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等への献血バスの配車 ・医学部、薬学部、看護学部への献血バスの配車 ・研修医の献血問診業務への協力依頼 ・医学生への血液製剤使用適正化に係る冊子の配布 ・学生献血ボランティアとの更なる連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティア団体、各大学 ・各大学 ・各研修医受入れ病院 ・医科大学

秋田県	<ul style="list-style-type: none"> ・医学生の血液センター訪問、研修血液事業に係る教育の実施 ・大学における献血講話の実施（血液センター） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学医学部
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ・学生献血協力サークルへ献血者不足等の情報提供及び献血希望者の募集を行うメール配信（血液センター） 	
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・「献血出前講座及びセミナー」 対象：高校、大学、専門学校 献血のほかAED講習やHIVの講話など学校の希望を取り入れている。 ・「高校生献血ボランティア体験」 対象：県内高校生（主に夏季に実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関 ・街頭献血の呼びかけなど赤十字の活動を体験する場を設けている。
福島県	<ul style="list-style-type: none"> ・献血キャンペーンへの高校生・大学生ボランティア等に参加してもらうことにより、身近に献血に触れる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各高校、大学のボランティアサークル等に対する事前の参加依頼を行う。
		<p><参考> 「アンパンマンのエクス」（DVD）は献血への理解が得られる非常によいツールと思われるので、積極的に活用すべき。</p>

⑤年齢別人口に占める献血者の割合が低い傾向にある50～60歳代を対象とした普及啓発の取組

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・この年代で人気のあるスポーツ(パークゴルフ等)イベント会場へ出向いての広報活動を検討中 ・献血参加の動機づけの一助として、「還暦献血」等の実施を検討。また、併せて60～64歳までに献血をいただくと69歳迄の協力が可能であることの周知徹底を兼ねて、折込みチラシやポスター等に60歳代の力(協力)が必要な旨のアピールを検討中。 	
青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・50～60歳代限定のキャンペーン(シニアキャンペーン)実施 	
岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層、高齢層向けテレビCMの制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・献血可能年齢の情報提供
宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・献血ルームの設備の充実(インターネット設備・マッサージ機器をはじめ、ガーデンカフェを楽しむ事のできるテラスなどの設置) ・平成16年より行っている「愛の献血70字ストーリー募集」の実施高齢者への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、報道機関、血液センター

⑥地域の特性に合わせた採血所のイメージ作りや移動採血車の機能面の充実等の、なお一層のイメージアップへの取組

都道府県名	<p>予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)</p>	<p>本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を 得るための方法。)</p>
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郊外の献血ルームや地方の血液センターについては、カントリー調の内装や地域の代表的な風景等を表現する内装を施し、ゆったり感の演出や家族的雰囲気を出している。 ・ 街中のルームについては、癒しの演出を行っている。 	
青森県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全献血ルームの待合室のレイアウトを変更。 	
岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血ルームの拡張リニューアル予定 	

第 1 2 回 献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

1. 22年度献血推進計画に盛り込まれた事業の取組予定

①平成23年4月1日施行予定の採血基準改正についての広報

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うにあたっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村担当者会議等での説明 ○高校生献血キャンペーン等での広報 ○地元ラジオ放送、チラシ(新聞折込)、駅前の大型ビジョンを活用した広報の実施 	市町村 血液センター 教育委員会 地元新聞社 地元AMラジオ局 コミュニティーFM放送局 等
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ○各種イベント・高校献血実施時などで、ポスター、リーフレット等の配布による周知 ○ラジオ、テレビ及び新聞などのマスメディアの活用 ○県及び血液センターホームページへの掲載 ○ハガキ・メール等による周知 	教育委員会、血液センター 県内各メディア
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> ○広報、ホームページ等による広報 ○17歳からの400ml献血に対して、養護教諭向けにリーフレットの作成を検討。 	教育委員会・各高等学校・血液センター

埼玉県	<p>○平成22年度後半に、血液センターと県のホームページに掲載及び関係機関に通知（新規）</p> <p>○市町村献血担当者会議等で適宜説明（継続）</p>	<p>県教育委員会、さいたま市教育委員会及び県総務部学事課を通じて県内全高校に採血基準改正の事前の連絡を実施する。</p> <p>また、採血基準改正について市町村、保健所にも周知を行う。</p>
千葉県	<p>【血液センター】</p> <p>○行政、血液センター及び各種団体との連携強化を図る</p>	<p>【血液センター】</p> <p>教育委員会、高等学校及び市町村献血推進協議会等に主旨説明を行い、理解を得る。</p>
東京都	<p>○ホームページ、都及び区市町村の広報紙等を活用して十分な理解と協力を呼びかけ広く広報を行う。</p> <p>○施設見学及び学校献血、文化祭などの学校行事に合わせて広報を行う。</p>	<p>○区市町村、血液センターとの連携。</p>
神奈川県	<p>○ホームページ、県・市町村広報紙等を活用し、住民に対して、十分な理解と協力を呼びかける広報を行う。</p>	
新潟県	<p>○ 地元ラジオ局による広報</p> <p>○ リーフレットの作成</p>	
山梨県	<p>○県広報誌への掲載や市町村広報誌への掲載依頼を行いたいと考えています。</p>	<p>市町村長に協力を依頼する。</p>

長野県	<p>○ 22 年度当初の段階では具体的な広報等の実施計画は未定。(採血基準改定に当たって、男性 69 歳まで血小板献血が可能になることや 17 歳から 400mL 献血が可能になることについては、献血推進や献血確保の点から期待している。)</p> <p>【血液センター】</p> <p>○ 県のホームページに採血基準改正に関する情報を掲載する予定。【県】</p>	<p>○ 市町村、献血協力団体、献血ボランティア団体等に対して新採血基準への理解と協力を得るため、渉外活動・広報活動に努めたい。また、メディアにも協力を依頼し、一般向けの広報を行いたい。</p>
-----	--	---

②地域の特性に応じ、キッズスペースを確保する等の親子が献血にふれあう機会を設けるための取組

都道府県名	<p>予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)</p>	<p>本事業を行うに当たっての規制や連携・協力先 (都道府県における規制について記載願います。 また、連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)</p>
茨城県	<p>○ つくば献血ルームの増改築を行う為、イベントキッズスペースを設置する。また、他ルームではキッズスペースがないため幼児向け絵本やぬりえを備え付けて対応している。</p>	<p>規制は特段なし</p>
栃木県	<p>○ 街頭献血実施の際のキッズスペースの設置 ○ 親子 A E D 講習と施設見学を実施 (小学生夏休み期間)</p>	<p>学生ボランティア等 地域の小学校等</p>
群馬県	<p>○ 献血ルームに幼児向けの絵本を備える。 ○ 献血ルームにおける託児体制の検討。</p>	

埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ○親子ふれあい献血キャンペーンの実施（継続） ○キッズスペースについては今後、新たに設置する献血ルーム（大宮第二献血ルーム（仮称））に託児体制の確保を図る予定 	血液センター
千葉県	<p>【血液センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若年層に対する献血啓発活動の一環として、普段献血に接することのない子供に幼少時代から献血へ興味、関心を持ってもらうことで、将来的な献血に資することを目的として、児童生徒と保護者を対象とした小学生を対象とした小学生献血学習会を年1回開催する。 	<p>【血液センター】</p> <p>献血施設と併せて医療現場の見学も実施予定であることから、県内の医療機関</p>
東京都	<ul style="list-style-type: none"> ○人員の配置、奉仕団やボランティアの協力依頼。 ○献血者に対する充足感のある環境を整える。器材及び広報資材の見直しを図る。 	○区市町村、血液センターとの連携
神奈川県	○安全性の検証等、キッズスペース設置に向けた前向きな検討を実施する。	規制や連携・協力先等を含め検討中。
新潟県	○献血ルームに幼児・子供向けの絵本を備え付け	
山梨県	○特に予定はありません。	
長野県	○献血固定施設内に託児スペースを設けるなど設備の充実に向けて検討する予定。【血液センター】	○特になし。

③「献血出前講座」や血液センター等での体験学習への取組

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生を対象とした夏休み親子教室の実施 ○高校生を対象とした献血出前講座及び施設見学会の実施 ○企業(事業所)を対象として献血出前講座の実施 	各市町村の教育委員会 各高等学校 県内各企業
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ○とちぎ県政出前講座において、「血液のはなし」と題し、血液の働きと、献血から作られる血液製剤の使い方などについての説明 ○施設見学の実施(血液センター) ○小学校等の校外学習事業の受け入れ(血液センター) ○親子AED講習の実施(小学生夏休み期間) 	依頼内容等により、血液センターと連携 教育委員会・地域の小学校等
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> ○血液センター体験学習 ○献血出前講座の実施 	教育委員会・各小中学校・血液センター
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ○血液センター顧問を講師とした血液出前講座の実施(継続) ○新高校1年生を対象とした献血ルーム見学会の実施(新規) 	血液センター

千葉県	<p>【血液センター】</p> <p>○若年層及び献血全年齢層への献血啓発として、高校生を対象とした献血セミナー、中学生職場体験を積極的に実施・受入を行う。</p>	<p>【血液センター】</p> <p>千葉県教育庁教育振興部→実施高等学校の選定と実施依頼 千葉県青少年赤十字指導者協議会→青少年赤十字採用校での実施勧奨 千葉市教育委員会学校教育部→職場体験受け入れ先として血液センターを紹介</p>
東京都	<p>○リーフレットや広報資材等を整備して、既存の地域（PTA）や学内献血等で、献血の啓発を行う。</p>	<p>○区市町村、教育委員会、学校等、血液センターとの連携。</p>
神奈川県	<p>○小・中学生の親子を対象として実施している「夏休み小中学生親子献血教室」を拡充し、血液の大切さや助け合いの心について、さらなる啓発を図る。</p>	<p>県、市町村、各市町村教育委員会、各教育事務所、各小中学校等の連携・協力を必要とし、文書で協力依頼をしている。</p>
新潟県	<p>○高等学校における献血普及講演会の実施 ○小学生から高校生を対象とした献血ルーム見学会の開催</p>	<p>県教育委員会</p>
山梨県	<p>○特に予定はありませんが、今後検討を行いたいと考えています。</p>	
長野県	<p>○「長野県政出前講座」のテーマの一つとして「身近に感じる献血」を設定している。県民から依頼があれば、県職員が説明に出向き、県民と意見交換等を行っている。【県】</p> <p><説明内容> ・はじめての献血（基礎知識） ・県内の献血の現状 ・献血方法、採血基準 など</p>	<p>○特になし。</p>

④大学等における献血の推進及び将来の医療従事者をを目指す者に対する普及啓発の取組

都道府県名	<p style="text-align: center;">予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)</p>	<p style="text-align: center;">本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)</p>
茨城県	○学内献血時にミニキャンペーンの実施、また学園祭でパネル展示やクイズ等を実施し推進を図る	各大学・ライオンズクラブ
栃木県	○県内の大学・短大・専門学校での献血実施及び実施時に若年層向けチラシ・パンフレットの配布 ○学生献血推進連盟「かけはし」の活動支援 ○看護学校の学生等の血液センター施設見学の受け入れ ○看護学校の学生等あてにハガキ等による献血依頼	献血実施大学・学生献血推進連盟「かけはし」等
群馬県	○県内大学への献血協力の依頼。	県内各大学・私立大学協会・各種専門学校・血液センター
埼玉県	○大学における献血実施の際、学内ボランティアサークルに広報活動の援助を受ける。(継続)	血液センター 大学のボランティアサークル
千葉県	【県】 ○献血者安定確保対策事業として、献血推進員(5名)を雇用し、大学等への献血協力要請・献血広報等を行う。 【血液センター】 ○学生ボランティア募集用パンフレットを作成し、千葉県学生献血推進協議会会員の増加を図り、各大学献血実施時のボランティア活動の依頼、若年層を対象とした献血キャンペーンを行う。	【血液センター】 ○県内各大学及び JRC 採用校に血液センターを通じ協力依頼をする。

東京都	<ul style="list-style-type: none"> ○大学・短大献血の増回及び増班やグループ・ペア献血の実施。 ○携帯メールクラブの会員案内と情報提供。 ○ホームページ、都及び区市町村広報紙等を活用して十分な理解と協力を呼びかけ広く広報を行う。 ○施設見学の実施。 	○血液センター及び各学校の学校祭などにおける献血紹介 ボランティア(学生)や、行事の実行委員会等との連携強化。
神奈川県	○ 県内大学生を対象としたイベント(ボラフェスタ in KANAGAWA) の開催	横浜ベイスターズ、横浜F・マリノス、川崎フロンターレ、湘南ベルマーレ、FMヨコハマほか地元企業、団体等
新潟県	<ul style="list-style-type: none"> ○大学、専門学校等への献血バスの配車(栄養士が同行し、栄養指導を行う。) ○専門学校における献血普及講演会の実施 ○献血を体験してもらうための献血ルーム見学会 	大学、専門学校等
山梨県	○特に予定はありません。	
長野県	<ul style="list-style-type: none"> ○特に若年層へのアピールに重点をおき、医療系、薬学系の大学生に対して体験学習等の定期的実施を計画している。【血液センター】 ○長野県内の各大学のキャンパスにおいて、献血啓発用ポケットティッシュを配布する広報活動を定期的実施するとともに、協力可能な大学においては移動採血車を配車しキャンパスでの献血を計画している。【血液センター】 ○若い世代への啓発事業として、保健福祉事務所(保健所) 担当者が高校、短大、大学、専門学校等を訪問し、献血への理解と協力を求めている。【県】 	<ul style="list-style-type: none"> ○各大学担当部門 ○各大学の学生担当課 ○血液センター

⑤年齢別人口に占める献血者の割合が低い傾向にある50～60歳代を対象とした普及啓発の取組

都道府県名	<p style="text-align: center;">予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)</p>	<p style="text-align: center;">本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)</p>
茨城県	○定期的なDMを活用し、献血の協力依頼と献血情報等提供を行う	血液センター
栃木県	○献血推進キャンペーン等における普及啓発の実施 ○対象年齢層あてにハガキ等による献血依頼	血液センター
群馬県	○各種献血キャンペーンの実施と、DMの活用。	血液センター
埼玉県	予定なし。	
千葉県	<p>【県】</p> <p>○各種献血キャンペーンを実施するとともに、各種広報媒体に献血関連情報を提供する。</p> <p>【血液センター】</p> <p>○献血協力依頼文書の発送及び自治会等地域住民を対象とした説明会の実施。</p>	<p>【県】</p> <p>○県民だより、市町村広報誌、県内報道機関、地域広報誌、JR及び私鉄各社等</p> <p>【血液センター】</p> <p>○50歳以上の方への献血場所の情報提供及び各市町村、推進団体の協力を得て献血者の確保を図る。</p>
東京都	○継続的なDMによる依頼。 ○ホームページ、都及び区市町村の広報紙等を活用して十分な理解と協力を呼びかけ広く広報を行う。	○区市町村、血液センターとの連携
神奈川県	未定	

新潟県	○継続的なDM、献血メールクラブの活用 ○AM民放ラジオによる定期的な献血情報の提供	
山梨県	○特に予定はありません。	
長野県	○定期的に献血依頼のハガキ等を発送する。 【血液センター】	○特になし。

⑥地域の特性に合わせた採血所のイメージ作りや移動採血車の機能面の充実等の、なお一層のイメージアップへの取組

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
茨城県	○実施予定なし	
栃木県	○若年層等を対象としたイベント・サービスの企画 ○血液センターリニューアル(平成21年2月1日)後の維持・継続 ○血液センターまつり実施による地域へのイメージアップ及び地域貢献	○県内各メディア
群馬県	○献血ルームの移転計画に伴うイメージ向上。	市町村・ボランティア団体・血液センター
埼玉県	○本年度新設を予定している大宮第二献血ルーム(仮称)に、託児体制の確保や栄養指導などのスペースを設けると共に赤十字事業の情報発信の基地としての機能を持たせる。	血液センター

千葉県	<p>【血液センター】</p> <p>○献血ルームにおいて、健康増進に配慮したリラクゼーション関連のサービス等を行うことにより、献血ルームの更なる周知を図り献血環境の更なる向上に努める。</p>	大手リラクゼーションチェーン店等関係団体
東京都	<p>○献血者に対する充足感のある環境を整える。器材及び広報資材の見直しを図る。</p> <p>○献血者の安全性を確保しつつ、動線の流れのよい環境作り。</p>	<p>○血液センターや献血ルームとの情報連携を強化し、設備の充実を検討。</p> <p>○地域の商工会等との連携。</p>
神奈川県	○老朽化が進んでいる献血ルームなどの積極的な改善を行う。	
新潟県	<p>○献血ルームにおける雑誌・マンガの充実</p> <p>○テレビを利用した企画提案の募集</p> <p>○民放FM局による献血ルームのPR</p>	広告代理店
山梨県	○特に予定はありません。	
長野県	○献血処遇品の見直しや、献血者が来所しやすく、居心地の良い施設環境の整備を心がけることにより、医療機関のニーズにマッチした献血確保に努める。【血液センター】	○市町村やメディアと連携・協力して、献血施設のPRを実施する。

